

日華連 会報

中曾根 弘文 氏

第124号

第9回 時代を彩る百花繚乱展

会長・中曾根弘文先生夫妻を囲んで
(日華連役員)



一般社団法人日本華道連盟

東京都新宿区百人町2-18-20 ☎03-3369-3769

発行人 塚越 応 鐘

編集人 渡邊 華 鳳



▲塚越応鐘理事長 挨拶

さしい心に花が添えられ心をいやします。日華連の心で理事長を盛り立て、これからの一年頑張りましょう。」との開会の言葉に続き、理事長の年頭の挨拶が次のようにあった。「皆様あけましておめでとございます。今期最大の寒波の中、欠席もなく集まってくくださりありがとうございます。」

一月十九日(日)正午から京王プラザ・錦の間において、一般社団法人日華道連盟の総会が、井口理香事務局長の司会のもと開催された。

矢部清華副理事長の「皆様あけましておめでとうございます。今日は各流派の代表者が集まる日。一時間前に楽しい気持ちで参りました。中曽根先生の秘書の上屋様、

総 会

平成26年度

(社)日華道連盟

総会並びに新年会



▲矢部清華副理事長 挨拶

そして報道関係の方に御礼を申し上げます。つつがなく年をとり、理事長の人柄にほれこんで今日まで来ました。花は心で生ける。や



▶中曽根弘文先生秘書 上屋勝哉様

般社団法人になってから一年ですが、つつがなく行事ができました。一九六八年、珍山荘で発会式が行われ、連盟でなくてはできない海外華道使節団の活動、華道大学講座では講師を一〇〇人迎え、華展は白木屋から始まり、小田急、銀座プラザ、玉川高島屋、そして今年の新宿パークタワーの一階という、素晴らしい会場で開催されます。日本有数の高級ホテルに我々の作品が飾られることは夢のようです。」

来賓祝辞は中曽根弘文先生の秘書である上屋勝哉様より「一般家



▲日華連役員

庭にお花がある時は景気の良い時。生活を豊かに、心を豊かに花を生けることは花の個性を生かすことだと思えます。感性の中に生まれる偉大な芸術。和風、洋風等、時代に合った花を創造される先生方が心一つにして取りくむ姿。非常に良く調和のとれた団体だと思えます。皆様のお役に立てることを願います。皆様の御多幸を祈っております。」との言葉をいただいた。

その後、会長塚越応鐘先生を議長として議事に移った。いずれも承認された。



▲井口理香事務局長

- ・ 出席者 四五〇名
- ・ 出席者 五五名
- ・ 委任状 二七一名
- ①平成26年度総会関係の件
- ・ 出席者状況 井口事務局長
- ・ 総会レジメについて 井口事務局長
- ・ 平成25年度事業報告案、平成26年度事業計画案について 岡野企画部長
- ・ 平成25年度収支決算報告案、平成26年度予算案について 加辺会計部長
- ・ 羽鳥会計副部長
- ②第9回時代を彩るいけばな百花繚乱の件 井口事務局長
- ・ 出瓶者最終確認

午後一時から、渡辺華風常任理事の司会で、新年会が開会しました。開会の言葉を矢部副理事長が「先ほど、大切なことを言い忘れました。全国に各団体が三千くらいあって、それぞれ華道家の中から、その団体の長が選ばれます。そういう規約があります。日華連は、今から四十何年前に、この社団法人ができた時、今の理事長のおばあさまが一番の先達者となり誕生しました。日華連は総理大臣が

新年会



▲加辺会計部長



▼岡野企画部長

会長です。これは珍しいことです。私たちの誇りに思っていることです。お華の先達者という素晴らしい団体ですから、自信を持っていきましょう。」と力強いお言葉を述べられました。

次に塚越応鐘理事長が「四月に迫りました今度の華展。会場はすぐそこです。素晴らしい会場です。華展が大成功に終わりますように皆さん、ご協力よろしくお願います。」とご挨拶されました。

続いて、来賓の日本花卉新聞社の田村光様が「皆様あけましておめでとございます。私事で恐縮



会場風景

ですが、昨年三十年ぶりに引越して行きました。近所に挨拶に行く時、何を持って行くかと考え、花の仕事をしている者として、やはり花でしょう!と行うことで、シクラメンの花を持って行きました。すると、十人が十人花をもらったと同時に自然に笑みを浮かべます。この話を大田花きの磯村社長さんに話すと「花はすごい力を持っているんだよ。目先の利益だけじゃなく、そういうことを社会に浸透させることが我々の役目なんだよ。」と言われました。本当に花は人々の心を幸せに明る



▲高山秀山副理事長

最後に、高田秀山副理事長の「本日の総会は無事に終了いたしました。今年の華展は初めての会場です。それぞれの考えで素晴らしいお花を生けましょう。本日は寒い中お集まりくださり、ありがとうございます。ありがとうございました。」という閉会の言葉のもと総会は終了した。

くしてくれる素晴らしい力を持っています。私は今年「前向き・上向き・外向き」をモットーとし、アクションを起こしていこうと思っています。」と心温まるお言葉をいただきました。

中曽根康弘様、弘文様の祝電が披露され、その後、井口理香事務局長が「来年度四十五周年を迎えるにあたりまして、日華連が益々ご発展いたしますとともに、会員一同のご健康とご多幸を祈念いたします。」と乾杯のご発声をされ、会場は和やかな歓談の場となりました。

数分後、皆さんお待ちかねの琵琶奏者の藤高理恵子様にご登場いただきました。藤高さんは、まだお若いのに何となく琵琶と出会い引き寄せられ、現在は読売カルチャー・浦和校の講師をされています。また、数々のコンクールで優



▶日本花卉新聞 田村光様

◀「乾杯」井口理香事務局長



秀な成績を収められ、国内外の演奏会にも参加し活躍されている方です。

琵琶は楽器ですが、基本的には一人でお話をし、それが効果的に伝わるような伴奏をしたり、リズムを付けたりするものだそうです。代表的な物は、平家物語、戦記物、鬼退治など悲劇の話や勇ましい話が多いのですが、それだけではなく、明るい音楽もできるということ伝えていきたいそうです。

最初の演奏は「那須与一」のお話。源義経から敵方の舟の上を立てられた扇を矢で射ると命じられるが、与一は舟は揺れているし風もあり、距離もあるのに無理だと断わる。しかし、大将の命令が聞けないのかと言われ、仕方なく射るといふ場面までを演奏してくださいました。会場は力強く迫力のある歌と撥

さばきに緊張した様子でしたが、ここで楽器の説明に入ってくださいました。琵琶は桑の木でできていて、裏は杓文字のように平らですが中は空洞になっていて共鳴させて音を出します。音階は弦を押上げて音を変え、音色は幽玄な響きが特徴です。先生の琵琶は「筑前琵琶」と言い、筑前の盲僧琵琶がルーツで、昔はお坊さんが説法したり、人を引き付けるために面白い話をしていたそうです。

二曲めは、その中の一つ「酒餅合戦」という滑稽話を参考に今風に音を付けた作品です。内容は、酒と餅が自分の方が偉いと喧嘩する。その喧嘩が激しくなり戦いとなり、大根のお漬物が仲裁に入るとい

う実に楽しいお話で、会場からはいつしか笑いが出るようになりました。アンコールには、皆さんご存じの「祇園精舎」を演奏してくださいました。凜とした素敵なひとときをありがとうございます。

最後に武井美恵副理事長が「来る四月の華展は会場が変わりますが、それも楽しいと思います。頑張って作品を出していただきたいです。」と述べられ、会は終了しました。



▲琵琶奏者 藤高理恵子様



▲武井美恵副理事長

新年会に

参加して

華道池坊寿美華流

佐藤寿美知

新年一月十九日、今回初めて総会・新年会に参加させていただきました。

華やかなホテルの会場で円卓に座り、ひな壇には金屏風。着物をお召しになった先生方も多く、めでたい雰囲気においしいお食事、久しぶりにお会いする先生方とも会話が弾み楽しいひと時でした。印象深かったのが、日本華道連盟の結成当時よりご存じの矢部清華先生の開会の言葉です。日本全国にたくさんさんの社団法人がある中で、総理大臣が会長になっていた団体はめずらしいとのこと。華道への社会的期待の大きさに感慨深くなりました。

お食事が終わる頃、余興の琵琶奏者・藤高理恵子さんが登場し、若くてお綺麗なので先生とお呼びするのはお気の毒との声もあがり、さすがに、朱色の着物を着こなされ「那須の与一」「酒餅合戦」「祇園精舎」を堂々と華やかに上演されました。

筑前琵琶は盲僧琵琶がルーツで、仏教の説話をするときに人々を惹きつけるため効果音をつける楽器だったそうです。弦が五本で幅広く、低音から高音まで出せるそうです。ギターなどと同じ空洞があり三日月型の窓も二つあります。初めて生で見る琵琶は、弦の幅広さに合わせたバチの幅広さと、横から見る厚みの薄さが印象的でした。

琵琶といえば合戦ものや悲劇ばかりで渋くて暗い幽玄なイメージが強いですが、明るいものもできるといふのを広めたいとのこと、コミカルな「酒餅合戦」(酒と餅どっちが偉いかの喧嘩が合戦に発展、大根の味噌漬が仲裁に入る落語的な話)を演奏され、大いに笑わせてもらいました。緊迫した情景が目につかぶような聴きごたえのある「那須の与一」や定番の「祇園精舎」でしっかり琵琶を聴いた感じもあり、初めて聴く琵琶演奏は貴重な体験でとても満足感がありました。

藤高さんはカルチャースクールで琵琶と出会い、今では師匠の後継者でコンクール受賞多数だそうです。若い世代が古典を継承していく、というところも華道のこれからと重なって奮い立たされる思いがしました。

第9回

時代を彩るいけばな

百花繚乱展

4/11
~14

第九回百花繚乱展は、会場を新たにして新宿のパークタワーギャラリーにて開催されました。会期中天候に恵まれ、多くの来場者がゆっくりと観賞してください、盛会のうちに終了いたしました。

二〇一四年四月十一日(金)と十四日(月)で例年に異なり三次展を二次展とし、前期・後期として開催。出品者は合わせて二〇八名でした。広々としたギャラリーアトリウムの一階と二階に、名の通り百花繚乱の見事な花々。格花と現代華の調和がなされ、また、季節が四月なので、今までと違った華材がさらに新鮮さをもも出していました。

今回は会長である参議院議員・中曽根弘文先生夫妻がご来賀くだ



さり、ゆっくりと会場の作品を一つひとつ見てくださいました。日華連華道大学で講師を務めてくださいましたヴァイオリニスト・大谷康子先生や、元NHKディレクター・波田野紘一郎様、万葉の語り部・小沢よし先生、ヴァイオリニスト・佐原敦子先生、衆議院議員・細野豪志先生の奥様の節様など、多くの著名人にご覧いただけましたのは大変喜ばしいことです。今回は和の芸術に皆様の興味が少しずつですが傾いてきております。国際交流も盛んな中、私たちは日本の伝統を守り後世に伝えていかねばなりません。最高のホテルで日華連の華展を催すことができましたのは、塚越応鐘理事長が前からパークタワーで華展を開催していた実績があったからです。第一回目は皆で心を合わせ、多くの来場者を迎えることができ、立派に華展を成功させました。次回もまた、よりよい華展になるよう期待しています。



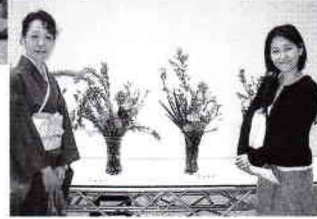
細野豪志先生
夫人 (右)



中曽根弘文先生
夫妻 (左)

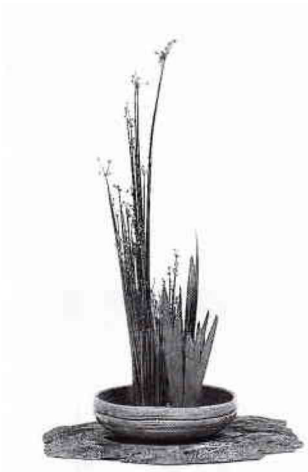


ヴァイオリニスト
大谷康子様 (右)



会場風景

作 品



副理事長 高田 秀山



副理事長 矢部 清華



理事長 塚越 応鐘



常任理事 井口 理香



副理事長 武井 美恵

作 品



常任理事 波邊 華凰



常任理事 越川 裕巧



常任理事 佐藤寿美華



常任理事 鸛飼理久美



理事 加辺 成久



理事 岡野鬨華齋

作 品



理事 武井 美睦



理事 熊谷 幸遊



理事 羽鳥 応友



理事 小原澤応菁



理事 長田 華鳳

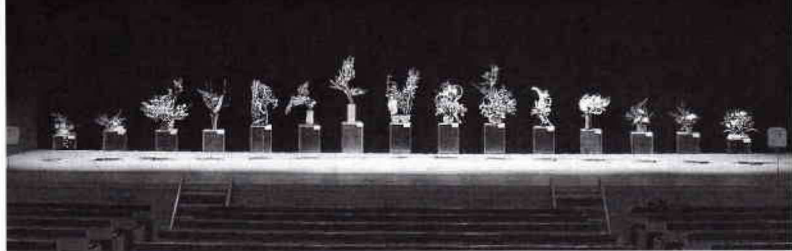


監事 山崎 淡葉



監事 竹下 応芽

第37回県民芸術祭参加 高崎・安中地域文化フェスティバル



加辺 成久
(東華古流)



塚越 応鐘
(いけばな松風)

平成二十六年二月一日(土)三日(月)、群馬県安中市文化センターにおいて、第三十七回県民芸術祭参加高崎・安中地域文化フェスティバル(展示部門)が開催されました。安中市文化センターの舞台を会場に、高崎・安中・松井田の各華道協会代表による作品展示を行いました。黒の暗幕をバックにいけられた花々は照明に映え、それぞれの作品の個性を発揮。全体の調和も良く、新たな見える場を発見した思いでした。
日華連会員は塚越応鐘(いけば



平林 応静
(いけばな松風)



佐藤 応花
(いけばな松風)



吉澤 一和
(遠州古流和松会)

な松風・高崎)、加辺成久(東華古流・高崎)、吉澤一和(遠州古流和松会・安中)佐藤応花(いけばな松風・安中)平林応静(いけばな松風・松井田)の五名が出瓶しました。

常任理事紹介

鵜飼先生は総務を担当していらつしゃいます

国民文化祭について

古流みどり会

家元 鵜飼理久美

国民文化祭に何度も参加させていただき、楽しい思い出がたくさんありました。

個人ではなかなか行かれない県にも皆様と一緒させていただき、いろいろと勉強にもなりました。

理事長先生のお話ですと、二十七年度は鹿児島県とのことです。今後国民文化祭の存続が問われている時なので、日華連としても最後の国民文化祭になるかもしれません。私もぜひ参加したいと思っています。



平成25年度 群馬県文化協会連合会

研修集会

平成二十六年二月十三日
(木)・十四日(金)、群馬県文化協会連合会・群馬県教育文化事業団主催の平成二十五年度群馬県文化協会連合会研修集会在伊香保温泉のホテル天坊において開催されました。塚越応鐘理事による「暮らしの花」と題した講演といけばなが実演されました。

いけばなの歴史と自らの流派の変遷をたどりながら講演。実際の暮らしの中でいけばなが時代ととも

もに変化を遂げて来たことや、一流派を九十年守り伝承していくため、時代のニーズに合わせ柔軟にスタイルを変えてきたことなどのお話がありました。

後半には、塚越会長が得意とするガラス器を使ったモダンないけばなが実演されました。背丈に並ぶほどの大作のいけばなでは、コラボレーションとして高崎市文化協会吉井支部の高橋昌祐支部長率いるパイオリン・ピアノデュオの演奏が行われました。美しい音色につつまれた、ゆったりとした雰囲気の中での実演となりました。

(高崎市文化協会会報ひじり 第17号より転載)



会場のようす



群馬県文化協会連合会研究



第45回

高崎市華道協会いけばな展

第18回高崎市いけばな展

第3回キッズいけばな展

平成二十六年三月十四日(金)～十九日(水)、高崎シティギャラリーにおいて、第四十五回高崎市華道協会いけばな展・第十八回高崎市いけばな展が開催され、春に先駆けての花々に来場者の好評を博しました。

今回の市民いけばな展(公募)では十人の高校生応募があり、高齢化の進む華道界にとって歓迎



すべき出来事でした。一方キッズいけばな体験教室には、三十七名の小学生の応募があり五流派が担当。子供たちの熱心な受講ぶりに、いけばなの将来に一筋の光を感じるひと時でした。作品は後期に展示され、来場者の注目を集めました。

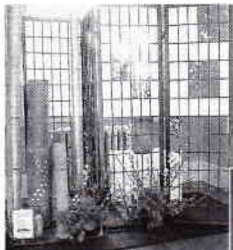


華アート2014

2月4日(火)～9日(日)
いけばな企画集団「華匠の会」

主宰 長田 華鳳

今回も横浜山手芸術祭参加で開催されました。会場は、昨年のベリックホールに隣のエリスマン邸も加えました。参加者は神奈川県内を中心に二十四名、「花木をいける」というテーマでした。ただ花を飾るといいうのではなく、文化財である両邸をどう飾るかという事に苦心していました。後半の三日間が大雪にたたられました。が、ものすごい入場者数を記録し両館の館長からも毎年続けてほしいとの要望をいただきました。



▲長田華鳳先生作品
“かぐや姫の誕生と成長”



▶上原瑞光先生作品



いけばな研究者・華道洗心雲林派
米村 孝月

今回も例年同様、さいか屋藤沢

第64回 藤沢華道協会 いけばな諸流展

4月2日(水)～7日(月)

主催 藤沢華道協会

会長 長田 華鳳

後援 藤沢市・藤沢市教育委員会

JCOM・レディオ湘南

藤沢市文化団体連合会

参加者のうち日華連の会員は、長田華鳳、大澤一煌、上原瑞光の三名でした。「いけばな」を考えたとき、その場をどう生かすかという空間芸術の原点に立つことを忘れがちになってしまふ華道家に、一石を投じる機会になればと思つて開催しています。自由な会ですから、皆様方多くのご参加をお待ちいたしております。

◀長田華鳳先生作品“なし”



店での開催となりました。出瓶者は、前期・後期で二十一流派一七〇名、来場者は六日間で一万人を超える大盛況でした。

近年、多くの人を対象にした文化活動に目を向けようという風潮が開始されたことは素晴らしいことです。この展覧会でも、昨年同様藤沢市の補助のもと「いけばな体験教室」を開催し、一六〇名を超える応募者があり会場を賑わしております。

藤沢市では、文化活動の一助と

「いなほのしづく」二六四号をお届けいたします。今回は曾呂利新左衛門が抛入れたと伝えてい、桜の花の絵図をもとに話を綴ってみました。今年の桜の花の開花が例年になく早いそうで、お手紙が付く頃には花が散りはじめているかも知れません。が、心の片隅に我が国の先人たちが桜の花をどのように愛でて来たのか、その

なる政策に力を入れていきます。行政の後押しなくしては伝統文化の復活も難しいのが現状です。私は今後も行政との二人三脚で伝統文化の活動に力を注いでいくつもりです。



▲体験教育で真剣に取り組む
鈴木藤沢市長と秘書

思いを思い起こしていただけたら幸いです。

① 絵図の解説

村田珠光(一四二二―一五〇二)は、茶の湯の祖と称されている。奈良の称名寺(しようみょうじ)の住職であったとき、楠木で作った箱釣瓶(はこつるべ)を相阿弥のもとへ持参し、見せたことがあ

った。すると「これは、よい花器だ。茶の湯の道具として用いなきさい」と、お褒めの言葉を頂いた。そこで、寒中に花を開いている水仙の花を生け、床の間に飾った。その姿を絵師が写し取ったのが、この絵図であると『抛入花之園』は伝えている。因みに、相阿弥(？-一五二五)とは、義政公の同朋集で、床飾りの方式を大成した人として、また山水画の名手としても知られている。

『抛入花之園』所収。明和三年(一七六六)刊。米村蔵書。

② 絵図の解説

初代池坊専好(？-一六二二)は、安土・桃山時代から江戸時代初期にかけての立花師。最初の花展であると伝えられている「百瓶華会」は、京の都の人気をさらったことで名高い。また豊臣秀吉が、加賀の前田家へ御成(おなり)したとき生けた砂物(すなのもの)は「池坊一代之出来物」と称され、評判となった。

絵図は、瓢箪を花器として用いた、掛け入れ花。早春に咲く水仙の花に、金盞花(きんせんか)の花を取り合わせて生けられている。瓢箪を花器として用いていたのは、『論語』の一説に「一簞の食(し)、一瓢(いっぴょう)の



飲」(僅かばかりの食物で、清貧に甘んじて暮らすことの大切さ)と、説かれていた言葉を花器の姿に写したものの。豪華で派手になりつ、あつた戦国大名たちの生活に、清貧にくらすことの素晴らしさを説いた作品として注目に値する。また、一枚の水仙の葉は跳ね上げられて、花の上に覆いかぶさるように生けられている。そこには、上に立つ者(リーダー)は、庶民たちの暮らしを守って欲しいとの願いを込めたに違いない。

『生花指南書』所収。
江戸時代初期の写本。米村蔵書。

平成二十五年三月発行

『いなほのしづく』一六四号

より抜粋

翠月古流

翠月古流家元 渡邊 華風

翠月古流では一月十二日に新年会、三月十六日に免許式を催しました。さらに、四月二十七日日には演歌の舞台、八木春子ショーに参加し、十名で舞台花を生けました。今回で十回を数えます。いつもは華やかな盛花でしたが、今回は立華の古典華で五重を中心に三重、二重、一重、投入れと全体で富士山に鳳凰が舞い上る感じを表現いたしました。ブルーの空に舞う鳥、



八木春子ショー



それぞれの作品が鳥のように感じられました。誰の作品もくすぐれることなく、終了をむかえるまでしつかりと生かり、皆安心した様子でした。十分間で生ける立生けは大変でしたが、よい勉強になりました。

翠月古流は四月三日〜六日まで秩父宮邸でいけばな展を行います。森作りの会の協賛で、会の方々が作った花器にお花を入れます。五月十七日〜十九日まで、御殿場市華道連盟教授会展をエスパシオで行います。また、五月二十八日から日中共同の浜松花博に参加し、中国の華道家華展と親睦会を催します。

編集後記

今回は新年会、百花繚乱展など行事が続きました。どの会も盛会のうちに終了し、日華連の絆の強さを感じます。

記事にご協力いただきましたありがとうございます。どうぞ各先生方、遠慮なく華展のこと、流派のことなどお寄せください。お待ちしております。次回は十月末日まで受け付けております。

編集 渡邊 華風

武井 美陸